

2019年8月30日

関係各位

一般社団法人 日本電機工業会
新エネルギー部

標準形能動的単独運転検出方式(JEM1498 2017年改正版) 搭載太陽光発電用パワーコンディショナへの切替について (お知らせ)

標準形能動的単独運転検出方式(JEM1498) は、単独運転防止対策として広く採用頂いておりますが、分散型電源用パワーコンディショナの導入量と配電線インピーダンスとの関係において電圧フリッカ^{注1)}を生じる事例が報告されております。

このため弊会ではフリッカ対策として能動機能待機状態への状態遷移を追加した JEM1498 2017年改正版を発行し(2017年12月：以下 JEM1498:2017 と記述)、順次 JEM1498:2017 への切替を推進しております。JEM1498:2017 を搭載していない機種では、現場でのフリッカ対策のため発電事業者の負担が増える可能性があるため、切替へのご協力をお願いしているところです。

このほど、弊会会員メーカーにおいては 2020年3月末までには原則として JEM1498:2017 への生産切替を完了する見通し(複数直流入力型を含む太陽光パワーコンディショナについて)となりました。今後とも JEM1498:2017 搭載パワーコンディショナの出荷にご協力をお願い致します^{注2)}。

以上

注1)10Hz程度の周波数で系統電圧が変動する現象。一般には白熱電球のちらつきとして観測されます。電力品質の問題であり、安全面の問題はありません。

注2)JEM1498:2017 を搭載していない流通在庫品につきましては、切替経過措置として引き続きご使用頂けますが、JEM1498:2017 を搭載していないものをフリッカが顕在している地域に設置する場合は周波数フィードバックの調整などの追加対策が必要になります。